

事業計画書

事業名		障がい児の保護者の居場所づくりノウハウ移転事業 ～保育士×保護者支援マインド～
グループ名		カフェバード・プロジェクト
代表 団体	名称	NPO法人ペアレント・サポートすてっぷ
	住所	倉敷市粒浦 217-2
	担当者	安藤希代子
	電話番号	086-431-1651
	E-mail	parents0322@gmail.com

1 事業を通じて目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。事業の実施により、地域課題が改善に向かった後、「どのような地域・人が、どのような状態になっていることを目指すのか」について、具体的に記入してください。

事業を実施することにより、発達に不安のある子どもの保護者が、困ったときに相談に行ける場所ができ、理解ある保育者や同じ立場の保護者と出会い、子育ての不安感や孤独感が軽減される。障がい児の保護者支援について、理解し寄り添い、支えてくれる人が地域に増え、障がい児の保護者が子育てしやすくなる。

2 現状

1 「事業を通じて目指す姿」と比べて、現状はどのような状況にありますか。「どのような地域・人が、どのような状況にあるのか」について、具体的に記入してください。

近年、発達障がいと言われる子どもの数が年々増えており（岡山県の「自閉・情緒障がい特別支援学級」在籍児童生徒数は 9 年間で 3.3 倍増）必然的にそのことで悩む保護者の数も増加している。障がいのある当人のケアも充分に行き届いているとは言えない中、その保護者のケアは更に置き去りにされている。専門家も「保護者の精神状態が悪いと子どもに悪影響が出る」と述べているが、発達障がいと診断されたあとの保護者のメンタル面のケアに対する取り組みがほとんど無いため、障がい児の子育ては健常児の子育てよりも困難性が高いにも関わらず、保護者は実質ノーケアで放置されている。一方で、障がいのある子どもに関わる保育士もまた、そのような親に対する適切なサポートの仕方がわからず悩んでいる。

3 目指す姿と現状の隔たりの要因

1 「事業を通じて目指す姿」と2 「現状」との隔たりを生み出している，主な原因はどのようなものと考えますか。

多くの人は、障がいのある当人は生きる上での困難が多く支援が必要だと認識しているが、その養育者については「大人なのだから・親なのだから・やって当然」と考えている。そのため子育ての困難に目が向かず、支援が必要だと考えていないことが原因だと考えられる。

一方で、子どもの保育を職業とする人たちにとって障がい児の保護者対応は特化した知識が必要とされるが、これまで一般的な保護者対応について学ぶ機会があっても、障がい児の保護者の支援について深く学ぶ機会というのは提供されていなかった。

4 計画の概要と対象者（平成30年度）

(1) 事業の形式

次のいずれか該当する事業の形式に☑をしてください（両方でも可）。

- ☒ 実践を通じてグループ内でノウハウを受け継ぐ事業
- ☐ グループ内の団体それぞれが持つノウハウを持ち寄り，地域の新たな催しや地域資源を開発する事業

(2) 計画の概要

3 「目指す姿と現状の隔たりの要因」を取り除くため，どのような事業を実施しますか。
「どのような地域・人に対して，どのような活動を行うのか」について，簡潔に記入してください。（ 計画の詳細は下記7に記入してください）

当法人が現在まで2年間運営している「障がい児の保護者の居場所 うさぎカフェ」の運営で培ったノウハウとそれを支えるマインドをセットにして相手団体に移転することにより、保護者の支えとなるような居場所の立ち上げを支援し、同時に障がい児の保護者に関わる職業の人たち（今回の場合は保育士）に保育の技術に上乗せできる知識を得る機会としてもらう。

5 アウトプット（直接の結果）

(1) 事業を通じて提供するサービス

事業を通じて、「どのような地域・人に対し、どのようなサービスを提供するのか」について、具体的に記入してください。

一般社団法人チカクに対し、発達に不安のある子どもの保護者の居場所運営を通して蓄積した知識を、座学の形で伝える（1 日実施）。居場所担当となる予定の職員に対し「うさぎカフェ」での実習を通して保護者への具体的な接し方を学んでもらう（1 日あたり 2 人×5 日）。チカクが居場所を実施する予定の地域（早島町）で「保護者支援啓発講演会（または勉強会）」を、当法人とチカクの共催で、開催する。チカクが実際に「1 日居場所」を企画し、そこに法人メンバーが補助の形で入る。最後に、今後チカクがどのような形で保護者の居場所を実際に運営していくかについてプランを立て、当法人がそれについてアドバイスをする。事業完了後、実際に居場所が始まったら法人はチカクのアフターフォロー（相談に乗る等）を行う。

(2) アウトプットを測る指標と数値目標

事業のアウトプットを測る指標はどのようなものですか。「どのような項目が、現状はどの程度で、それをどの程度にしたいのか」について、具体的に記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
保護者支援についての座学受講者数	0 人	10 人
保護者支援についての実習受講者数	0 人	10 人
保護者支援啓発講演会参加者数	0 人	50 人
1 日保護者の居場所利用者数	0 人	8 人

(3) アウトプットの測定方法

事業を通じて、アウトプットを測る指標をどのように測りますか。数値目標の達成状況を把握できる、具体的な方法を記入してください。

受付による参加人数の把握

6 アウトカム (事業の成果)

(1) 長期のアウトカム

1 「事業を通じて目指す姿」の一段階手前の状況はどのようなものですか。最終的に実現しようとしている、地域・人の変化や効果を具体的に記入してください。

チカクのスタッフである保育士が、子育て支援の現場において、子どもの障がいの診断名の有無に関わらず、不安を感じる保護者を丁寧かつ適切にフォローすることにより、子どもが小さいうちからの細やかな子育て支援が実現する。保護者にとっては、子どものことをよく知ってくれている保育士の先生が、最も身近な理解者・相談相手になってくれることにより、大きな安心感を得られる。チカクが関わる保護者は、以前よりも理解者の支えを感じながら安心して子育てできるようになる。

(2) 短期のアウトカム

今年度の事業のアウトプットを通じて、実現したい成果はどのようなものですか。アウトプットから今年度中に導かれる地域・人の変化や効果を具体的に記入してください。

一般社団法人チカクが運営する子育て支援の現場において、障がいの診断名の有無に関わらず、子育てに特別な困難を抱えていたり、育児への不安・負担感の大きい保護者に対し、これまでのチカクの事業の枠組みを超えた集いの場所を提供する。チカクの保育士は、保護者心理についての深い知見を得ることにより、保護者の気持ちが以前より理解できるようになり、一層適切な保護者支援、保護者対応を行うことができるようになる。

(3) 短期のアウトカムを測る指標と数値目標

事業のアウトカムを測る指標はどのようなものですか。「どのような項目が、現状はどの程度で、それをどの程度にしたいのか」について、具体的に記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
チカクを利用する保護者や「1日居場所」を利用した保護者に対し、「居場所」に期待するもの、居場所があることについてどのように感じるかを測るためのアンケートを実施する	育児に不安感・負担感を感じているが相談先を持たず、同じ立場の保護者とつながることもできずに育児の負担感が大きいと感じている保護者 10 人	保護者同士が繋がれる場所ができ、話を聞いてもらうこともできるようになったことにより、以前よりも安心して子育てに向き合えそうだと感じる保護者 10 人

7 計画の詳細

(1) 事業の具体的な内容

内容、対象者、実施期間、実施場所、ねらい等を具体的に記入してください。

○プログラムの流れ

一般社団法人チカク（以下、チカク）の職員に対し「ノウハウ移転 1 日座学」を行い、保護者の心理の理解、保護者の居場所の考え方および支援の実際について講義形式で具体的なノウハウを伝える。

チカクの希望する地域（早島町）において、障がい児の保護者支援の必要性を啓発するための講演会（勉強会）を行うことにより、地域の機運を高め理解者、応援者を増やすためのきっかけづくりとする。（講師：NPO 法人ペアレント・サポートすてっぷ理事長 安藤希代子 会場：ゆるびの舎研修室）

チカクの職員に「うさぎカフェ」の現場を体験してもらい、保護者に接するための実際のノウハウについて、実地で伝える。

（1 日あたり受け入れ人数 2 人 × 5 日）

いかしの舎（早島町）において、チカクが主体となって、1 日限定の「障がい児の保護者の居場所」を実施してみる（「うさぎカフェ」スタッフ 2 名が手伝いに行く）

- 事業のまとめ チカクが今後居場所を実施していくためのプランを立てる。法人はそれについてアドバイスをする。
- 事業実施後の発展
一般社団法人チカクは、次年度以降、計画に沿って居場所を実施していく。
「NPO 法人ペアレント・サポートすてっぷ」は、アフターフォローをする（具体的な相談に乗る等）

(2) 事業のスケジュール（準備～実施～報告）

7 月	スケジュール相談・日程調整
7 月～9 月	座学、うさぎカフェスタッフ体験（1 回あたり 2 人 × 5 日）実施
10 月	啓発講演会準備打ち合わせ、啓発講演会チラシ発注
11 月	啓発講演会チラシ配布、申込受付開始
1 月	障がい児の保護者支援啓発講演会実施（早島・ゆるびの舎予定）
2 月	「発達に不安のある子どもの保護者の 1 日居場所」実施（早島・いかしの舎予定）
3 月	事業の振り返りおよび今後の計画策定
H31 年度	移転後フォローアップ

8 ノウハウとその有効性

ノウハウとは、団体が過去に実施した活動の中で習得したり、成功や失敗の経験から得たりした、地域の課題解決に有効な手法や技術などの蓄積を言います。それぞれの団体が有するノウハウの内容と、それを事業にどのように活かせるのかについて、具体的に記入してください。

- NPO 法人ペアレント・サポートすてっぷは、倉敷市粒浦で「障がい児の保護者の居場所うさぎカフェ」を 2 年以上運営し、年に 1,200 人超の利用者を受け入れている。「うさぎカフェ」のような常設の障がい児の保護者の居場所というのは全国でも例がなく、先進モデルと言える。他にも、障がい児の子育てに役立つ情報を集めた冊子「倉敷子育てハンドブックひとりじゃないよ」を作成・発行する「ハンドブック作成事業」、学校や児童発達支援センターへ出張してグループ相談の場を持つ「出前茶話会」事業、講演会の企画・運営・講師派遣を行う「講演会事業」など、障がい児の保護者支援に特化した取り組みを様々な展開し実績を積んでいる。
- 一般社団法人チカクは、2011 年から倉敷市中島と岡山市北区辰巳でプレ幼稚園「ようちえんごっこプチャぱれっと」(利用者数 45 人×40 日) 2012 年から倉敷市から委託を受ける茶屋町の倉敷市地域子育て支援拠点「ちゃやっこひろば」では年間 4000 人以上の利用者を受け入れている。他にも、5 歳児向けの防災体験プログラムの出前授業を行う「子ども防災ネットワークおかやま」を企業や NPO などと協働で 2011 年から実施するなど、多分野の団体との協働にも実績のある法人である。グレーゾーンの発達領域のこども達をプレ幼稚園で多く受け入れ、保護者の対応についての知見を受け、相談業務のスキルアップにつなげたいと考えている。

9 事業完了後の取り組み

補助金の交付条件として、事業の完了後 1 年以内に、事業の成果を活かした取り組みを実施することとしています。事業の成果が継続して地域に根付くのに有効な取り組みであれば、その規模や内容は問いません。事業完了後に予定している取り組みの内容を具体的に記入してください。

(1) 事業の実施主体となる団体名

一般社団法人チカク

(2) 事業完了後の取り組みの概要

2018 年度に WAM の助成を受けてスタートする「ママぱれっと」のなかで、障がいの有無にかかわらず受け入れていける居場所として継続していく。

収支予算書

	所属・役職	氏名
経理責任者	NPO法人ペアレント・サポートすてっぷ・副理事長	石川 圭子
経理担当者	NPO法人ペアレント・サポートすてっぷ・副理事長	石川 圭子

1 収入の部

科目	内訳	金額(円)	積算根拠
補助金		371,000	千円未満切り捨て, 上限 750 千円
その他	会費より	25,000	
収入合計		396,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円)	積算根拠
人件費	座学・講演会	97,000	5 名 × 7 h × 900、9 名 × 8 h × 900
	研修・1 日居場所	75,000	5 日 × 2 名 × 7 h × 900、2 名 × 7 h × 900
謝金		0	
旅費交通費	講演会	2,000	9 名 × 14 k m × 15
	1 日居場所	1,000	2 名 × 14 k m × 15
消耗品費	コピー用紙	1,000	2 冊
	トナー	14,000	2 個
	講演会花代	10,000	花・演題・テープ
	1 日居場所花代	10,000	花・消毒液・ティッシュ・テープ
印刷製本費	ポスター・チラシ	120,000	講演会用、1 日居場所用
通信運搬費	郵送料	20,000	高梁川流域や関係事業所への郵送料
保険料		0	
使用料・賃借料	ゆるびの舎	13,800	
	いかしの舎	7,200	
委託料		0	
対象経費計		371,000	
食糧費	講演会用弁当	25,000	25 名 × 1,000
その他		0	
対象外経費計		25,000	
支出合計		396,000	(収入合計と一致)

金額は切り上げて千円単位で記入してください。